

# 流行歌の歌詞に多用されるフレーズと、その変遷について

Research on the phrases used by lyrics of popular songs, and its transition.

1W110295-9 高橋 周

TAKAHASHI Shu

指導教員 菅野 由弘 教授

Prof. KANNO Yoshihiro

概要： 「J-Pop は瞳閉じすぎ」。これはインターネット上の掲示板で、J-Pop の歌詞を揶揄するかのよう書き込まれている言葉である。他にも「翼広げすぎ」、「君に逢いたすぎ」などと皮肉られていることもある。確かに、どこかで耳にしたことがある歌詞が増えたと感じるのは間違いないが、「瞳を閉じる」や「翼を広げる」以外にも多用されている歌詞があるのではないかと。それはどの程度の割合で使われているのか。本研究では「瞳を閉じる」のように「名詞+動詞」のものを「フレーズ」と名付け、歌謡曲、J-Pop のヒット曲の中から、頻繁に使われているフレーズとその割合、年代ごとに特徴的なフレーズについて調査を行った。結果、「夢を見る」が4307曲中241曲で使われており、最も多く使用されているフレーズだった。また、年代別の特徴を表すフレーズは、時代背景と関連していることも判明した。

キーワード： 歌詞、フレーズ、J-Pop、割合、年代別の特徴

Keywords: lyrics, phrases, Japanese popular songs, percentage, characteristics according to the generation

## 1. はじめに

日本の流行歌は、昭和の頃は「歌謡曲」、平成に入ってから「J-Pop」と呼ばれている。本研究では1968年～2013年の、それぞれ年間シングルヒットチャートTop100の歌詞について調査を行い、歌謡曲、J-Pop の中で一番多く使われていたフレーズとその割合を求め、考察を行った。また、1968年～1979年、1980年～1989年、1990年～1999年、2000年～2009年、2010年～2013年の5つの年代に区切り、各年代の特徴的なフレーズとその割合についても調査、考察を行った。

## 2. 調査方法

EKWords と呼ばれる、「日本語／英語の文書データからキーワード（単語、連語）を抽出・集計するソフト」<sup>[1]</sup>を用いて、歌詞の中で多く使われている単語を調査し、その単語が含まれているフレーズを調査した。人称代名詞と、時間を表す副詞として使われることが多い単語を除いた結果、調査を行う単語は「愛、夢、心、恋、人」の5つに決まった。

また、1968年～1979年は「雨」と「花」、1980年～1989年は「瞳」、「気」、「海」、1990年～1999年は「想い」、2000年～2009年は「声」、2010年～2013年は「世界」が、それぞれの年代において特徴的な単語であり、これらが使われているフレーズについても調査を行った。

## 3. 調査結果

歌謡曲、J-Pop で一番多く使われているフレーズは「夢を見る」であることが判明した。続いて「恋をする」、「人を愛する」が多用されており、更に「人がいる」、「君を愛する」と続く。

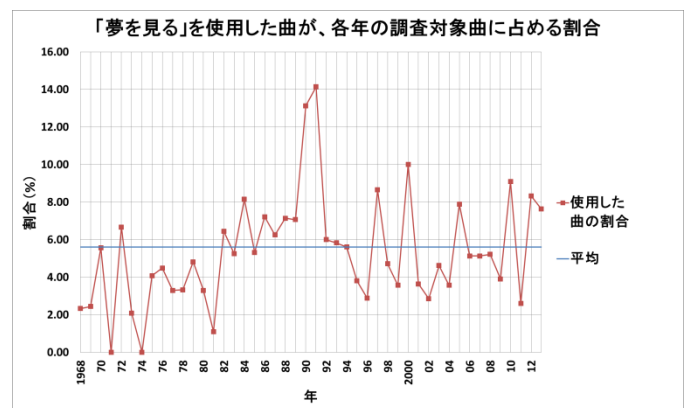


図1 「夢を見る」を使用した曲が各年の調査対象曲に占める割合

また、1968年～1979年は「花が咲く」と「雨が降る」の2つ、1980年～1989年は「気がする」、「瞳を閉じる」、「海を見る」の3つ、1990年～1999年は「想いが溢れる」、2000年～2009年は「声を聞く」、2010年～2013年は「世界が回る」が、それぞれの年代で特徴的なフレーズであることが判明した。

#### 4. 最も多く使われていたフレーズ

「夢を見る」が 4307 曲中 241 曲で使われており、歌謡曲、J-Pop で最も多く使用されているフレーズだった。目標としての「夢」ではなく、恋人への憧れや募る思いを表す「夢」としての使われ方が圧倒的に多く、恋愛ソングが好まれていることが分かる。また、「夢を見る」が使われている曲は、1971 年と 1974 年以外の全ての年で年間シングルヒットチャート Top100 にランクインしている。このことから、「夢を見る」というフレーズが J-Pop には欠かせないものであることが分かる。同時に、今も昔も変わらず、聴き手はこのフレーズに共感を覚え、そして励まされているのだろうと推察される。

他のフレーズに比べ 1990 年と 1991 年は特に多く使われており、これは日本がバブル景気を迎えていて、国民全体に恋愛をしている余裕があったからではないかと思われる。しかし、「恋をする」や「人を愛する」といったフレーズにはこのような特徴は見られない。これは「恋」や「愛」とは違い、「夢」には前述した「憧れ」の意味合いも強く、聴き手がバブル景気の前向きな気持ちを「夢」に重ねていたからではないかと想像できる。

#### 5. 年代別の特徴を表すフレーズ

1968 年~1979 年の「花が咲く」と「雨が降る」には歌謡曲特有の日本情緒が表現されており、これらのフレーズを使用した曲は、一曲を通して失恋の悲しみや寂しさを歌っているものが多かった。1980 年~1989 年は、歌謡曲が J-Pop という呼称に変わった年代であり、「海を見る」には歌謡曲の名残が感じられる。一方、「気がする」、「瞳を閉じる」からは、自分の内面と向き合って恋人のことを考える心の余裕ができてきたことが読み取れる。恋人を思いやる描写が、1990 年~1999 年には「想いが溢れる」という直接的な表現に変化し、2000 年~2009 年にはより具体的な行動を求める「声を聞く」というフレーズに発展した。「声を聞く」が聴き手に好まれた背景には、2000 年以降の携帯電話普及率が 80%を越えていることも関係していると思われる。<sup>[2]</sup>

2010 年~2013 年の「世界が回る」というのは、他の年代のフレーズに比べると壮大である。インターネットや SNS の普及により、世界中の人々と容易にコミュニケーションが取れるようになった現代にふさわしいフレーズであると言える。

#### 6. 結論

本研究では歌謡曲、J-Pop の歌詞のフレーズに注目して、最も多く使われているフレーズとその割合、そして年代別の特徴を表すフレーズについて調査を行った。その結果、「夢を見る」、「恋をする」、「人を愛する」、そして「人がいる」の 4 つのフレーズは、どの年代を通して使われており、聴き手が特に求めているフレーズは時代背景に大きく左右されないと言える。「君を愛する」に関しても、他の 4 つに比べて使用率は低いけどどの年代でも使われており、特に平成に入ってから使用率は高く、今後も多くの曲で使われるだろうと推察される。

一方で、各年代の特徴を表すフレーズが存在することも明らかになった。歌謡曲、J-Pop がサウンド面のみならず、歌詞においても時代と共に移り変わってきた証拠である。

聴き手が普遍的に好むものを常に提供しつつ、各年代に合わせて新しいものを取り込み、変化を続けてきた歌謡曲、そして J-Pop。まさに流行歌としての役割を十分に果たしており、今後も変わらず人々に愛され続けるだろう。

注

- [1] 『DJSOFT EKWords / キーワード抽出ソフト』  
<http://www.djsoft.co.jp/products/ekwords.html> (参照 2015-01-30)
- [2] 内閣府(2014)「平成 26 年 3 月実施調査結果：消費動向調査」2014 年 4 月 17 日発表  
内閣府 Homepage <http://www.cao.go.jp/>  
(参照 2015-01-30)